

## 第2回協議会の開催結果概要

○ 開催日時 平成29年1月23日（月） 13:30～15:15

○ 場 所 国保会館 5階大会議室

○ 出 席

札幌市	長田委員	当別町	中出委員
夕張市	千葉委員	妹背牛町	廣田委員
苫小牧市	久保委員	函館市	横田委員
旭川市	山本委員	和寒町	酒井委員
北見市	佐野委員	帯広市	櫻田委員
広域連合	向井委員		

○ 事務局 大居事務局長、佐藤、半澤、佐々木、武藤

○ オブザーバー 北海道、北海道国民健康保険団体連合会

○ 会議内容（要旨）

### 1 開会

### 2 議題

#### ●平成29年度個別保健事業実施計画案について

事務局より、今年度と同様の事業展開とすることを説明

（各委員からの質問・意見なし）

### 3 その他

#### (1) 第2期保健事業実施計画の策定について

事務局より、スケジュール案と委員の選定における考え方などについて説明

（各委員からの質問・意見なし）

#### (2) オブザーバーからの情報提供

#### ●北海道「糖尿病性腎症重症化予防について」

- ・北海道版「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を作成することは決定している。
- ・糖尿病対策推進会議が市町村からの相談を行う仕組みを作って来年度以降で示したい。
- ・プログラムの具体の検討はこれからのため、市町村からの意見があれば聞きたい。

（各委員の意見）

- ・プログラムの策定を国保部門で検討しているため、参考にしたい。
- ・医療機関との連携について北海道から医師会への働きかけをお願いしたい。
- ・他の保険者とのネットワークの構築をお願いしたい。
- ・対象者や保健指導の内容について、限定的にならないような配慮を。
- ・道医師会は協力的だが、地域の医療機関とは温度差がある。

●国保連合会「保険者協議会の取組について」

- ・保険者協議会は、企画調査部会と保健活動部会の2つの部会からなっている。
- ・市町村ごと、2次医療圏ごとに国保と協会けんぽのデータを使用した疾病のリスクマップを作成する。
- ・リスクマップを活用した保険者協議会としての保健事業を進める。
- ・北海道のデータを、国保、協会けんぽなどと一体となって進めていく。

4 任期满后に当たってのコメント

- ・担当となってすぐにこの協議会に参加して、悩む部分もあったが各市町村のさまざまな話を聞いて、参考になった。
- ・今後は、国保の方を元気な状態で後期高齢に送り込めるようにしたい。
- ・保健師の方もいる中で、しっかり意見を述べることができるのか不安だったが、抱えている悩みは一緒なのだと感じた。
- ・担当課に保健師がいない中で、どのように保健事業が展開できるか、今後も協力をお願いしたい。
- ・市町村は、担当者が仕組みなどを理解したタイミングで異動してしまうため、後期高齢の担当と保健師とが協働して、という風になかなかならないのが難しい。保健師の方から働きかけることの必要性を感じた。
- ・自分は国保の保健事業をやっているが、実施してみると参加者の多くは後期高齢者だったりする。広域連合から市の現状をデータとして見せられることで、担当課で高齢者の実態を把握することができた。計画策定に携われて良かった。
- ・保健事業実施計画を策定する際には、広域連合の策定経過を知っていたことから、非常に参考になった。健康課題やデータの分析など、その視点を持って今後も保健事業を進めていきたい。

5 オブザーバーからの意見

(北海道)

- ・介護保険の部門ということで参加しているが、地域包括ケアシステムの構築が、これから高齢者の安心のために進められている。一緒に進めていかなければいけない部分も出てくると思うので、引き続き参加させていただきたい。
- ・市町村の声を聞く場がなかなかないので貴重な経験だった。価値のある場だと思う。

(国保連合会)

- ・計画は、2期目が本番といわれている。特に、介護との連携の部分を強く押し出すのが北海道色の計画だと思う。また、個別の事業計画について、できていない理由を分析しているが、できている理由を分析するのも効果的ではないか。

6 事務局長挨拶

7 閉会